

住

東海地区サッシ施工協会

求められる建築関係全体の 幅広い知識

ドア、窓など金属製建具を施工する専門家

サッシとは一般には窓枠を指しますが、いまでは金属製の建具全般をさす言葉として使われているようです。建具は戸、障子、窓といった外部と内部、あるいは空間を仕切る時に使われます。もともと木造住宅では木製の建具が使われていましたが、戦後になって鉄筋コンクリートのビルが作られるようになると鉄製の建具が使われだし、さらにアルミ製へと変わってきました。そして一般住宅の戸や窓にも軽くて丈夫なアルミが使われるようになりました。現在は一般住宅を中心に施工する企業もあれば高層ビルが専門の企業もあります。

サッシが比較的新しい建材だということは、業界自体の歴史も新しいということです。伝統の技を駆使するというよりは、最新の技術や工具をいかにして使いこなせることができるのかが大切になってきます。高層ビルなどの建築現場では大型クレーンなどを投入して建材が運び込まれます。建材に傷をつけることなく、正確に所定の場所へ収めるように指示をするためには、大型機械の運転はできなくても、知識は必要になってきます。



高い精度が求められる仕事

建築物の建材は年々進化し、防音や保温などに優れた効果を発揮しています。しかし、どれだけすばらしい建材が使われたとしても、組付けがしっかりしていなければ本来の性能を発揮することができません。特に建具の場合、わずかな狂いが戸や窓の開閉に大きく影響します。

簡単な作業であれば2～3年である程度は修得できる技術もありますが、仕事内容によっては10～20年を必要とするものもあります。こうした技術を習得するには、サッシの知識だけではなく、建築全般にわたる幅広い知識が求められます。そこで新しい技術についての情報交換や研削や溶接などの資格を取得するための講習会を協会として開催するなど、会員の技術向上に積極的に取り組んでいます。あるいは会員同士でそれぞれの得意分野に優れた社員を応援に出すといったこともおこなっています。

さらに20年ほど前からはボランティア活動の一環として老人施設の建具の修理なども続けています。



DATA ■東海地区サッシ施工協会

所在地：西区笠取町1-55

・昭和50年：東海地区サッシ施工協会設立

・平成3年：老人施設の建具修理のボランティア活動開始